

3. 資産の現状

本市には、1つの上水道事業と3つの簡易水道事業があり、各々の資産は以下に示すとおりであり、これらの資産の合計を全体の資産として取り扱う。ただし、資産の把握は、「構造物及び設備」と「管路」に分類して行う。

3.1 構造物及び設備の資産状況

構造物及び設備の資産状況は、能力・規模等から費用関数(デフレータ)を用いて求める。過去の建設改良費を整理し、最新年度(平成25年度)のデフレータで現在価値に換算した結果は、図-3のとおりであり、約12,865百万円となる。

※施設のリストは、現在稼働中の構造物及び設備とする。

※各施設の建設年度の情報である。

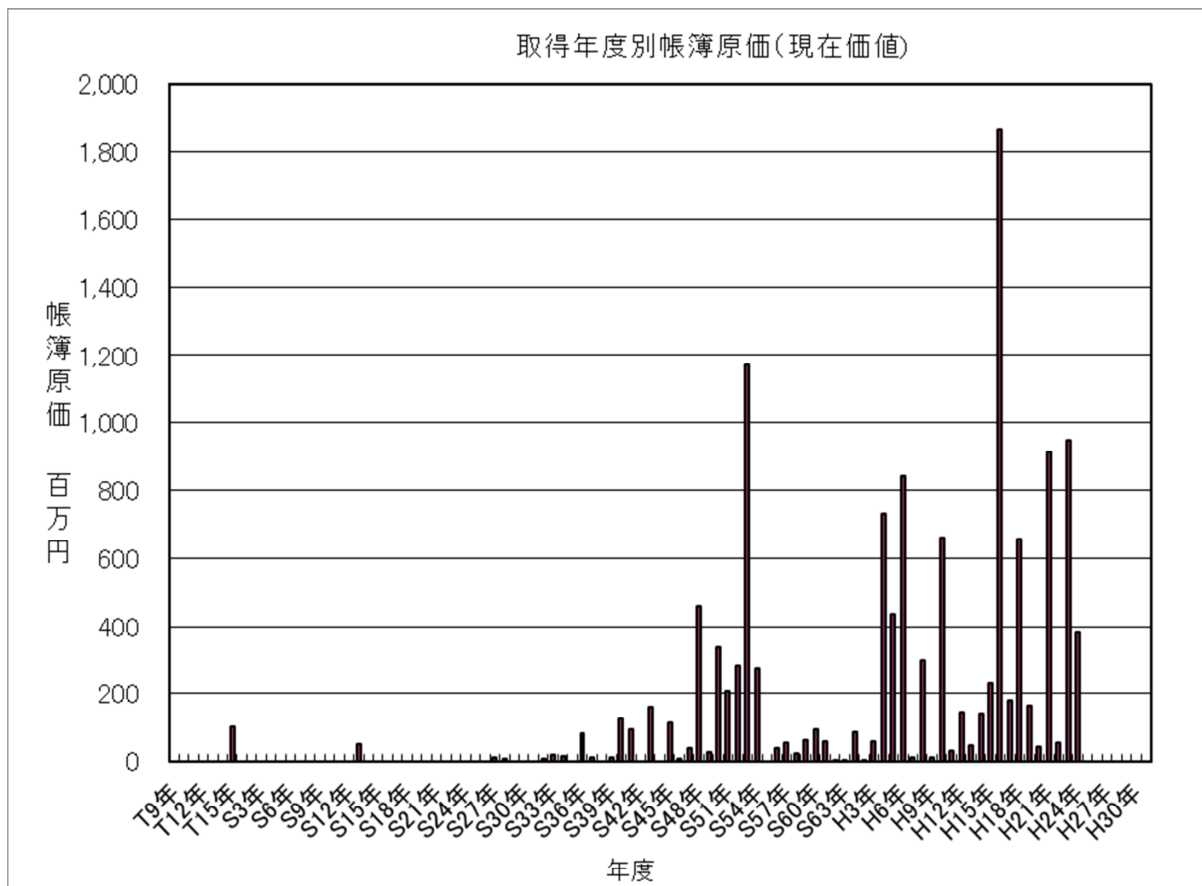


図-3 構造物及び設備の取得年度、帳簿原価等

3.2 管路の資産状況（管種別延長）

管路の管種別延長は、水道統計データ（平成25年度末現在）を使用する。

管種別延長等の内訳は、表-1及び図-4のとおり、基幹管路（導・送水管，配水本管）の約7割がダクタイル鋳鉄管，配水支管の約5割が硬質塩化ビニル管である。

管路資産は、管種別延長から年次別布設延長を設定し、標準施工単価を乗じて算出する。

表-1 管種別延長（平成25年度末現在）

水道統計の管種区分	管種記号	基幹管路		配水支管		総延長 (m)
		延長(m)	割合(%)	延長(m)	割合(%)	
鋳鉄管（ダクタイル鋳鉄管は含まない）	CIP	1,316	1.3	36,358	3.2	37,674
ダクタイル鋳鉄管 耐震型継手を有する	DIP 耐	1,428	1.4	16,000	1.4	17,428
ダクタイル鋳鉄管（上記以外・不明なものを含む）	DIP 他	70,700	69.1	327,347	29.2	398,047
鋼管（溶接継手を有する）	SP	6,739	6.6	6,271	0.6	13,010
石綿セメント管	ACP	228	0.2	9,093	0.8	9,321
硬質塩化ビニル管（RR継手以外・不明なものを含む）	VP	11,438	11.2	574,531	51.2	585,969
ポリエチレン管（高密度、熱融着継手を有する）	PE	8,467	8.3	59,712	5.3	68,179
ポリエチレン管（上記以外・不明なものを含む）	PP	35	0.0	86,245	7.7	86,280
ステンレス管（耐震型継手以外・不明なものを含む）	SUS	10	0.0	1,697	0.2	1,707
その他（管種が不明のものを含む）	他	1,965	1.9	3,930	0.4	5,895
合計		102,326	100.0	1,121,184	100.0	1,223,510

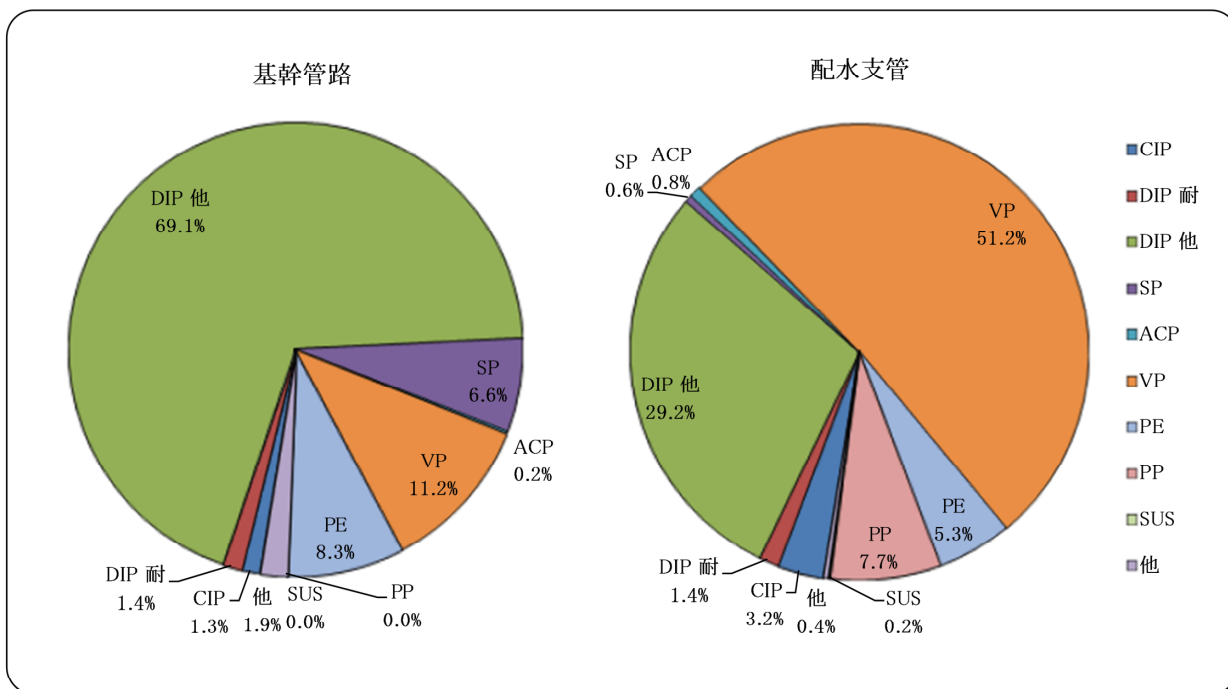


図-4 管種別延長割合